

超短編^①

「国立缶蹴団」(くにたちかんけりだん) その1 (20020829)

「国立缶蹴団」とは、読んで字の如く、東京都国立市にある缶蹴り仲間集団である。創立は、1976年(昭和51年)だから、今年で27年目に入った。

昨年は創立25周年ということで、過去にメンバーだった者とかにも呼びかけて、大々的なお祝いを行った。

国立缶蹴団ができるまで

それは、僕が中学3年生の時の話。

夏休みに入り、同級生達が受験勉強に本腰を入れ始めた頃、僕も当然勉強中心の生活を始めたものの、やっぱり1日のうち最低でも1時間くらいは体を動かしたいなあ、と考えた。

僕は、遊び仲間のSに、夏休み中の運動不足が心配だから、毎日1時間、一緒に運動をしようと呼びかけた。Sも二つ返事で賛成してくれた。

そして、やることにしたのが缶蹴りである。

最初のうちは夕方、クラブ活動も終わって、皆が帰った後の中学校の校庭で、たった二人で缶蹴りをやっていた。

たった二人でやる缶蹴りだから、通常のルールと違うルールでやっていた。

とにかく、よく走る缶蹴りだった。1時間に42.195kmくらいは走っていたと思う。気分的には。

毎晩僕とSは汗びっしょりになって家路についた。

さて、僕ら二人の楽しみを、他の仲間が放っておくはずがなかった。1週間もしないうちに、缶蹴り仲間は7人になった。

ルールも整備されていた。

いろんな、缶を試蹴りして、最も缶蹴りに適した缶というのも、自分達なりに発見した。

夏休みが終わる頃には、全校的に有名になり、メンバーは30人を超えていた。

女子の加入希望者もたくさんいたが、言い出しっぺの僕はあくまでも男子のみにこだわった。

当時から僕は硬派だった。

大所帯になると、またそれなりにいろんなルールの改定が行われた。

もともと運動不足解消が目的だったし、人数の少ないうちは相当な運動量だったので、本当にスポーツだったけれど、人数が増えると運動量は減って、単なる遊びになってしまっていた。

1時間やつても3kmくらいしか走っていなかった。

気分的には。

そこで、僕とSは缶蹴りを、野球やサッカー並の大衆スポーツにすべく、一からルールを作り直した。

そして、ここに新たに「国立缶蹴団」を創立したのである。

僕は当然団長になり、Sは審判長となった。

メンバー間の公平を期すため、残りの約30名には役は与えなかった。簡単だけど、ざっとこんな経緯で「国立缶蹴団」は誕生した。

超短編シリーズはフィクションです。念のため